

# 幼小中一貫教育研究だより

# Vol. 1

幼小中一貫教育をより発展させるために、レジリエンスの育成をめざした取組をしています。

本年度研究テーマ

(附属三原小学校 教諭) 梅野栄治

レジリエンスの育成をめざす幼小中一貫教育カリキュラムの研究  
—子供の挑戦・つまずき・努力を支える教師のマインドセットに着目して—

## 「光輝(かがやき)」で培った 資質・能力

これまで7年間、研究を重ねてきた「光輝(かがやき)」「光輝(かがやき)視点の保育」。子供一人一人の光輝くところを見つめて伸ばす研究をしてきました。この研究のよさは、幼小中の12年間を通して、同じ枠組み(表1参照)で教員が子供達の成長を促し見取ってきたことにあります。

表1 3つの次元(枠組み)と7つの資質・能力

3つの次元	構成する資質・能力
躍動する感性	・人間味溢れる豊かな感覚 ・自ら学ぼうとする姿勢
レジリエンス	・粘り強く取り組む力 ・コラボレーションする力 ・複眼的に思考する力
横断的な知識	・知識と知識を関連付けながら深く追究する力 ・論理的に問題を解決する力

めまぐるしく変化する社会に対応できるように、教員は、常に子供達の姿を3つの次元(枠組み)で見取りながら、変化の激しいグローバル社会を生き抜くための7つの資質・能力をつけようと様々な教育活動を設定してきました。

実際の活動の中では、様々な感情を含む人間らしい豊かな感覚を大切にしながら、自ら学ぶ姿勢を身につけていくことを重視してきました。また、目的をもって他者と協働しながら複眼的な立場で物事を捉え、粘り強く取り組む力を育むことを意識してきました。その過程で、学んだことを関連付け、論理的に学びをつなげて問題を解決していく力を付けられるように活動を工夫してきました。

## レジリエンスに焦点を当てて

これまでの研究で、本学校園の子供達の資質・能力にかかわる課題として、特に「レジリエンス」に対する課題が見えてきました。例えば、粘り強く取り組む力が弱いこと、自分のクラスの慣れた友達とのかかわりとなるとうまくいかないことが多くなること、自分の思いと相手の思いに違いがあるときに人とかかわる難しさがあることなどです。そこで昨年度からは、3つの次元の中でも「レジリエンス」の育成に焦点を当てて、研究を進めています。

## 教師のマインドセットに着目して

昨年度は、レジリエンスを人とかかわり(子供同士のかかわりを中心として)の中で育成することをめざして、「受容と共感」を促す手立てに着目した取組を行いました。

そして今年度は、学習場面における教師のかかわりの重要性を鑑み、教師と子供とかかわりの中でレジリエンスを育成することをめざして、「教師のマインドセット(教師がどのように考えて、日頃の取組をしているか)」に着目し、その効果について検証していきます。

レジリエンスの育成に向けた「教師のマインドセット」については次の3点に整理しています。

- (1) 子供の挑戦を促す多様な学習環境を設定する。少し難しい課題を与え、目標設定の段階をサポートする。
- (2) 失敗は成長のチャンスと考え、フィードバックの質を高める。子供の課題と改善点を具体的に示して成長を促す言葉かけを行い、次の行動を促す。
- (3) 努力を承認する。成長を具体的に示すことや、子供の取組のプロセスを評価する。

今後、これらの「教師のマインドセット」を基にした具体的な取組や子供達のレジリエンスの高まりの姿について、さらに発信していきます。



# 研究だより(カラー版)

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。  
学校園ホームページから、カラー版を閲覧できます。  
よろしければぜひご覧ください。



学校園ホームページ「幼小中一貫教育研究だより」URL  
[https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu\\_mihara/R7kenkyudayori](https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/R7kenkyudayori)

# 研究だよりの アンケートにご協力ください

幼小中一貫教育研究だよりをご覧いただきありがとうございます。  
子どもたちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。



アンケートフォームURL <https://forms.office.com/r/NcyaJhnhN4>